

所蔵作品展「MOMATコレクション」

2019年1月29日[火] – 5月26日[日]



川合玉堂《行く春》(左隻)1916年 重要文化財
(展示期間:3月19日-5月26日)



アンソニー・カロ《ラップ》1969年
Courtesy of Barford Sculptures Ltd
Photo: John Riddy

■ 今期のみどころ

① 明治から昭和まで、1時間でたどる時間旅行

20世紀はじめから今日に至る日本の近現代美術の流れを、国際的な関連も含めてご紹介するMOMATコレクション。第1室は「ハイライト」コーナーで、当館選りすぐりの名品がまとまっています。第2室から第12室にかけては、明治から現代まで時代を追って美術の流れをたどることができます。

② ハイライトコーナーに工芸作品が加わります！

今期から工芸作品が加わり、「MOMATコレクション」展は近代美術の殿堂としてグレードアップします。初回となる今期は、ハイライトコーナーに初代宮川香山《鳩桜花図高浮彫花瓶》(1871-82年頃、2019年3月19日[火]～5月26日[日])に展示)や森口華弘《縮緬地友禅笹文着物 残雪》(1969年、2019年1月29日[火]～3月17日[日])に展示)などが登場。今後は工芸も合わせたテーマ展示などにもご期待ください。

③ 新収蔵作品 アンソニー・カロ《ラップ》が初登場。

2017年度収蔵のデイヴィッド・スミス《サークルIV》(1962年)に続き、2018年度にはアンソニー・カロ《ラップ》(1969年)を新たに収蔵しました。20世紀のアートを語る上で欠くことのできない二人の重要作が並びます。

④ 企画展「福沢一郎展 このどうしようもない世界を笑いとばせ」関連展示。

1階企画展ギャラリーにて開催される「福沢一郎展」(2019年3月12日[火]～5月26日[日])に合わせ、第5室では「1930年代の幻想絵画」と題し、福沢の周辺で行われていた表現傾向を探ります。

⑤ 毎年恒例の「美術館の春まつり」(3月19日～4月7日)は第10室で。

花を描いた日本画・洋画が第10室に勢揃いします。重要文化財の川合玉堂《行く春》(1916年)のほか、跡見玉枝《桜花図巻》(1934年)、船田玉樹《花の夕》(1938年)など、花を描いた作品はこの部屋だけで16点。千鳥ヶ淵や紀伊国坂に咲き誇る桜との競演をお楽しみいただく趣向です。

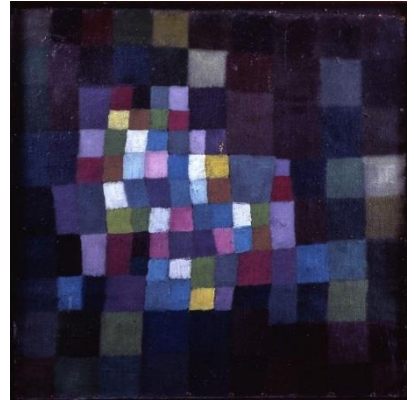
プレス用イメージ・取材、展覧会内容など報道関係のお問合せ先: 東京国立近代美術館 美術課広報担当(岩田)

TEL: 03-3214-2565 / FAX: 03-3214-2576 e-mail: pr-f@momat.go.jp

〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1

■ 作品解説をお手持ちのスマホで

所蔵作品展「MOMATコレクション」の作品解説(和英中韓の4ヶ国語)を、お客様ご自身のスマートフォンでダウンロードしてお楽しみいただけるサービスを行っています。まずは「Catalog Pocket」というアプリをインストール。展示中の作品のうち、約80点の作品解説を4ヶ国語でご覧いただけます。解説を自動読み上げ音声で聞くこともできます。完全無料です。なお、この事業はDNP大日本印刷のご協力によるものです。



パウル・クレー 《花ひらく木をめぐる抽象》1925年

■ キュレータートーク

2月2日(土) 14:00 ~ 15:00 三輪健仁 (主任研究員)

3月23日(土) 14:00 ~ 15:00 鈴木勝雄 (主任研究員)

* テーマ等詳細は当館HP (<http://www.momat.go.jp/am/exhibition/>)にてご確認ください。

■ 所蔵品ガイド

毎日1時間ほど、対話を交えたギャラリートークを行っています。最大の特徴は、作品解説を聞く一方向的なものではなく、参加者主体の鑑賞プログラムであること。当館解説ボランティア「MOMATガイドスタッフ」が参加者のみなさまと一緒に展示室をまわり、みなさまとの対話を進めながら、数点の作品を鑑賞します。ガイドスタッフを案内役に、みなさまは作品を自由に感じ、想像をめぐらせ、それを言葉にして語り合います。作品と向き合い、他の人との対話によって深く作品を掘り下げていく感覚は、まるで謎解きのようにも、新たな作品の魅力を発見していただける機会となるでしょう。



日時: 休館日を除く毎日、14:00-15:00

場所: 所蔵品ギャラリー(1Fエントランス集合)。要観覧券。参加は無料。

■ 画像の貸出について

所蔵作品展「MOMATコレクション」に出品中の作品は、どれでも無料(広報扱い)で画像を貸し出しています。貸し出しの条件は次のとおりです。

1. 展覧会(所蔵作品展「MOMATコレクション」)の会期中に発行される記事であること。
2. 掲載時には展覧会名(所蔵作品展「MOMATコレクション」)と会期、掲載作品が展示中であることを記してください。
3. 原則として、トリミングや文字載せはお断りします。
4. 著作権の保護期間内にある作品については、著作権者の許可をとってください。ただし、このプレスリリースに掲載されている画像については、著作権の保護期間内にある作品もご利用になれます。
5. 画像の二次使用は原則できません。
6. 作品によっては、カラー画像が未撮影の場合もあります。事前にお問い合わせください。
7. 会期外の使用は、DNPアートコミュニケーションズ(<https://images.dnpartcom.jp/>)へご申請ください。有料です。

展覧会概要

タイトル	所蔵作品展「MOMATコレクション」
会期	2019年1月29日[火]–5月26日[日]
開館時間	10:00–17:00 金曜・土曜は20:00まで(入館は閉館30分前まで)
休館日	月曜日(ただし2月11日、3月25日、4月1日、4月29日、5月6日は開館)、2月12日[火]、5月7日[火]
主催	東京国立近代美術館
会場	東京国立近代美術館 本館 4～2階 〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1
アクセス	東京メトロ東西線竹橋駅1b出口 徒歩3分
観覧料	<p>一般500(400)円 大学生250(200)円</p> <p>* 高校生以下および18歳未満、65歳以上、「MOMATパスポート」をお持ちの方、友の会、賛助会員、MOMAT支援サークルパートナー企業(同伴者1名まで、シルバー会員は本人のみ)、キャンパスメンバーズ、障害者手帳をお持ちの方とその付添者(1名)は無料</p> <p>* ()内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込</p> <p>* 17時以降の入館は「MOMATコレクション」観覧料が一般300円、大学生150円になります。</p> <p>* 本展の観覧料で、入館当日に限り、工芸館 所蔵作品展「近代工芸の名品— [特集展示] 棗にまつわるエトセトラ」(1/29–2/11に限る)もご観覧いただけます。</p>
無料観覧日	<p>毎月第一日曜日(2月3日、3月3日、4月7日、5月5日)、2月24日[日]、5月18日[土](国際博物館の日)</p> <p>* 2月24日(日)は天皇陛下御在位30年を記念して入館無料です。</p> <p>* 所蔵作品展「MOMATコレクション」、「イメージコレクター・杉浦非水展」(2階ギャラリー4)のみ(企画展「福沢一郎展 このどうしようもない世界を笑いとばせ」は観覧料が必要です。)</p>
お問合せ	03-5777-8600(ハローダイヤル) http://www.momat.go.jp (ホームページ)
同時開催	<p>企画展ギャラリー(1F)</p> <p>◆「福沢一郎展 このどうしようもない世界を笑いとばせ」</p> <p>2019年3月12日[火]–5月26日[日]</p> <p>観覧料: 一般1,200(900)円 大学生800(500)円</p> <p>* 高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方とその付添者1名は無料。</p> <p>* ()内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。</p> <p>* 「福沢一郎展 このどうしようもない世界を笑いとばせ」の観覧料で、当日に限り、「イメージコレクター・杉浦非水展」(2階ギャラリー4)、所蔵作品展「MOMATコレクション」もご覧いただけます。</p>